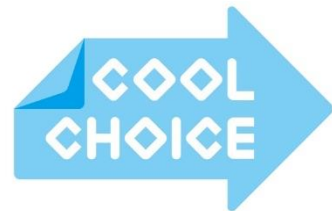


環境経営レポート

対象期間

令和2年10月～令和3年9月

全ては幸せになる為、豊かな地域づくりに貢献する



野原建設株式会社

発行：令和 4年 1月 27日

～ 目次 ～

◆ ご 挨 拶	-----Pa.2
◆ 会 社 概 要	-----Pa.3
◆ 環境経営方針	-----Pa.4
◆ 実 施 体 制	-----Pa.5
◆ 環境経営目標〈中長期目標〉	-----Pa.6
◆ 環境経営目標とその実績 〈令和2年10月～令和3年9月〉	-----Pa.7
◆ 環境経営計画の内容・取組結果の評価	-----Pa.8
◆ 次年度環境経営計画	-----Pa.14
◆ 建設業に関わる主な関連法規	-----Pa.15
◆ 代表者による全体の評価と見直しの結果	-----Pa.16

ご挨拶

現在、環境問題は早急な対応が必要とされ、地球温暖化、森林破壊、オゾン層破壊など、個人レベルでの取り組みでは容易に解決できない状況に陥っています。会社全体でエコアクション21に取り組むことにより、社員ひとりひとりが様々な問題の現状を認識するようになりました。

また、環境マネジメントシステムを理解することにより、環境問題を企業の経営に関連付けて考え、環境保全への取り組みに着手していくための道標にしたいと考えています。そして、日々の仕事の中という一番身近な所から「持続可能な社会」への取り組みを考えて行動ができる資質を、社員ひとりひとりが身に付けていけたらと願っています。

社員一丸となってアクションしていくことで、環境に与える悪影響が少ない社会へ向けての新たな行動を起こすきっかけとしていきたいです。さらに、実践を積み重ねていく上で、効果的なアクションについても発信し、一企業として、ミニマムインパクトを紹介していきたいと考えます。

野原建設は標高 750m の自然豊かな山間の地に生まれ、地域の方々に愛されながら 100 年の歴史を歩んできました。自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司



会 社 概 要

【名称及び代表者名】

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司

【所在地】

〒939-2513

富山県南砺市利賀村上百瀬 165

連絡先 TEL 0763-68-2136

FAX 0763-68-2608

E-mail : toga-nk@p1.tst.ne.jp

H P : <https://www.toga-nk.jp/>



【環境管理責任者及び担当者】

環境管理責任者 野原 修実

環境事務担当者 野原 裕人

【事業内容】

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業、解体工事業

【一般建設業】建築工事業、管工事業、塗装工事業

【事業規模】

創 業	大正3年8月1日	設 立	昭和52年12月17日
資本金	2100万円	売上高	452百万円 (R3年度)
従業員数	20 名	事業所/倉庫床面積	282㎡ / 484㎡

【認証・登録対象範囲】 全組織・全活動が認証対象範囲とする

事業所名及び所在地	野原建設株式会社 〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬 165
対象事業所	本 社
活 動	建設工事業（一般土木工事、建築工事、道路除雪作業）

環境経営方針

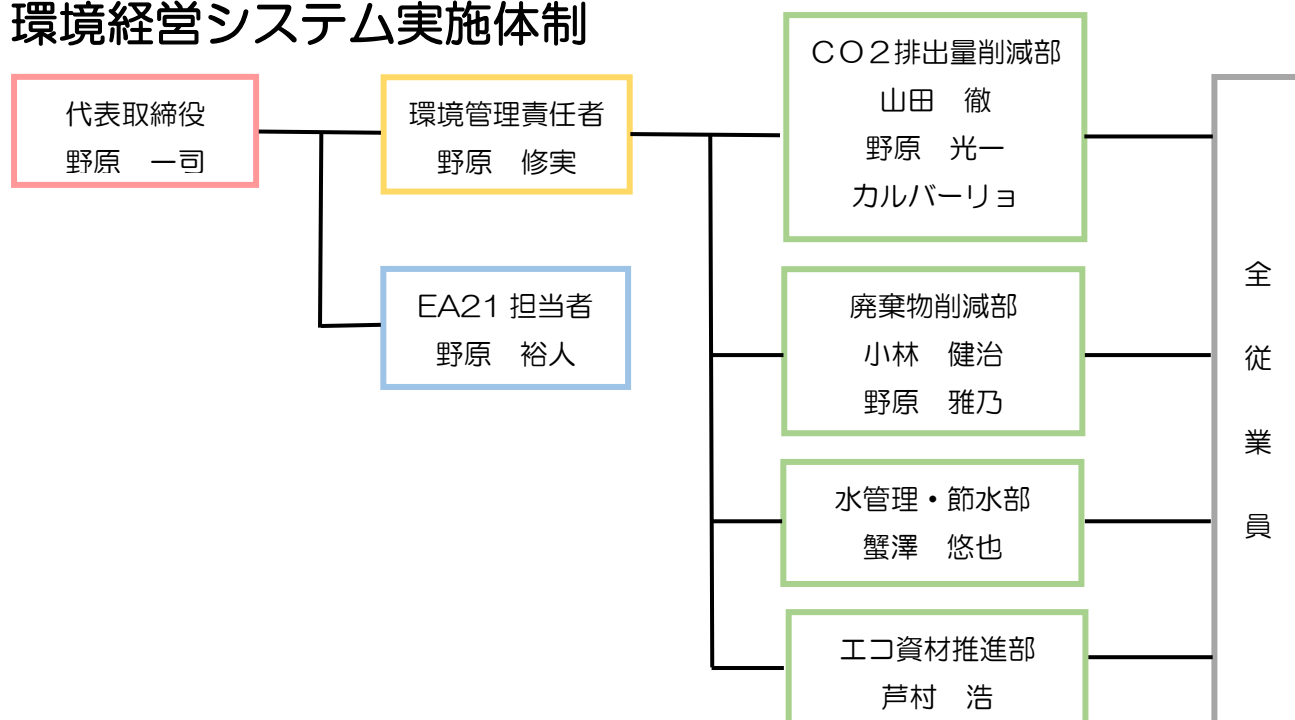
- (1) 当社の事業活動に関連する環境関連法規を定期的に確認し、社会的要求事項を順守し、発注者並びに利賀地域の自治振興会との協調連帯を図ります。
- (2) 環境経営方針達成を目指し、環境経営目標・環境経営計画を策定し、全社一丸となって利賀地域の環境保全活動の推進に努めます。
- (3) 全従業員のみならず関係者一同が理解・行動できるよう、環境経営方針の周知に努め環境教育や啓発に力を注ぎます。
- (4) 以下の項目について取り組みます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
 - ③ 総排水量の削減
 - ④ 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- (5) 環境経営レポートを社内外に公表し、地域社会の一員として社会貢献活動を積極的に推進します。

平成 31 年 4 月 30 日改定

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司



環境経営システム実施体制



役職	氏名	役割・責任・権限
代表取締役	野原 一司	- 環境経営に関する統括責任 - 環境管理責任者、環境事務局員を任命する - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員の周知 - EA21 全体の取組状況に関し、評価・見直しを実施する
環境管理責任者	野原 修実	- EA21 の要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し環境実績を向上させる - 環境経営計画書の承認 - 環境経営の取組結果を代表者へ報告
EA21 担当者	野原 裕人	- 環境管理責任者の補佐 - 環境経営計画書の作成及び実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部 門 長	小林 健治	- 自部門における環境方針の周知 - 自部門に関連する環境経営目標、環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 特定された項目の書類作成及び運用管理 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
	山田 徹	
	野原 光一	
	カルバーリョ	
	蟹澤 悠也	
	芦村 浩	
	野原 雅乃	
全従業員	各自	- 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 実施事項を守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

環境経営目標 〈中長期目標〉

項目		単位	R3 年度目標	R4 年度目標	R5 年度目標
二酸化炭素 排出量削減	CO ² 総排出	kg	321,798	年度維持管理	
	電気使用量	kWh	5,780		
	ガソリン使用量	ℓ	26,345		
	除雪高に対する CO ² 排出量(軽油)	kg/ 百万円	1955.5		
廃棄物排出量削減 (可燃ゴミ)		kg	133	123	123
産業廃棄物リサイクル率		%	100	100	100
総排水量削減 (5月～11月)		m ³	43	41	40
自らが施工・販売・提供する製品の 環境性能の向上及びサービスの改善		%	現場で使用する エコ資材(RC-40)の率先購入率 50%以上		

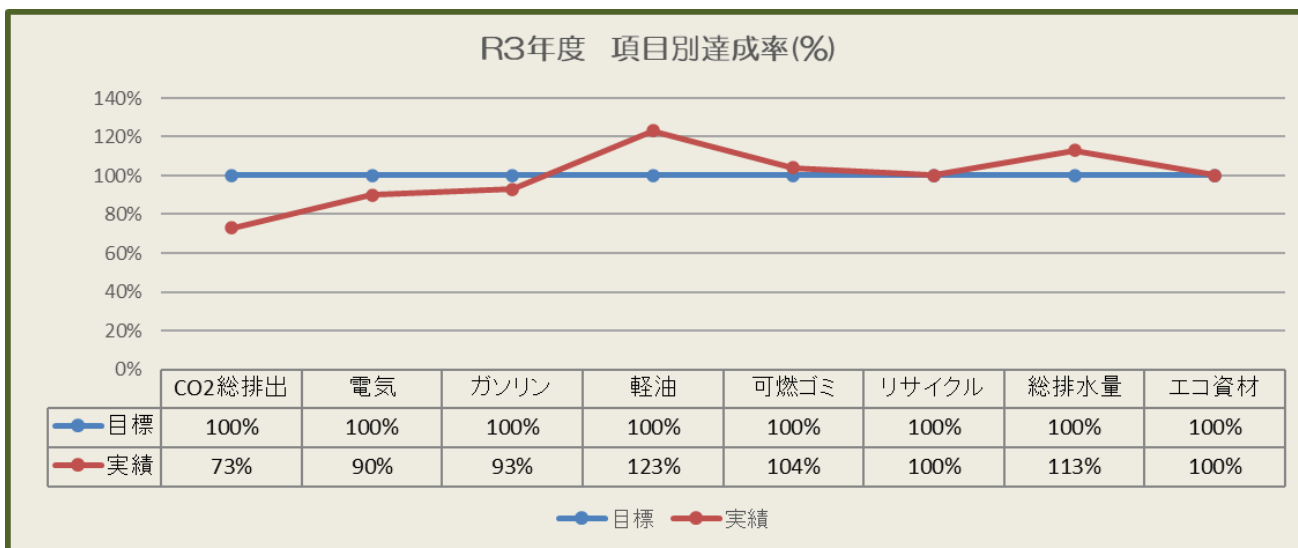
(目標設定における維持は過去5年の平均値を目標値とし、+5%までを許容範囲とし、
削減は過去5年の平均値を目標値とし、目標値以内の使用量・排出量を目指す)

※化学物質の使用はありません。

環境経営目標とその実績

項目		単位	H21 実績	R3 目標	R3 実績	R3 達成率
二酸化炭素 排出量削減 (灯油・LP ガスを含ま ない)	1.CO2 総排出	kg	296,391	321,798	443,676	73%
	2.電気使用量	kWh	7,093	5,780	6,427	90%
	3.ガソリン使用量	ℓ	23,808	26,345	28,250	93%
	4.除雪高に対する CO2 排出量(軽油)	kg/ 百万円	3713.3	1955.5	1593.8	123%
廃棄物排出量削減	5.可燃ゴミ	kg	224.85	133	127.42	104%
	6.産業廃棄物 リサイクル	%	-	100%	100%	100%
7.総排水量削減 (5月～11月)		m ³	49	43	38	113%
8.エコ資材(RC-40)購入率		%	-	50%	50.2%	100%

エコアクションの活動継続に伴い更なる削減が難しくなっており、過去5年間の平均を目標値に設定し、低排出レベルの維持に取り組む。



【上記目標に対する評価・総括】

今期は、ガソリン使用量と電気使用量の目標達成に一步及ばず、節約や省エネの意識面・設備面での改良が課題となります。また、軽油使用に起因するCO2総排出が増加したことは遺憾ですが、把握しやすい基準としている除雪高に対するCO2排出量が目標達成できたことを以て良しとしたいです。

今後も達成出来ている項目は継続して取り組み、全ての目標を達成できるよう努力します。



環境経営計画の内容・取組結果の評価

1. 二酸化炭素排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理

【二酸化炭素排出量の削減取組】

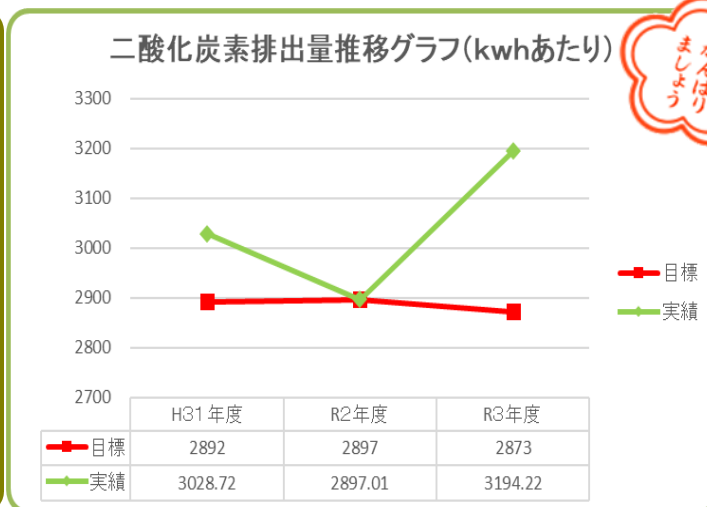
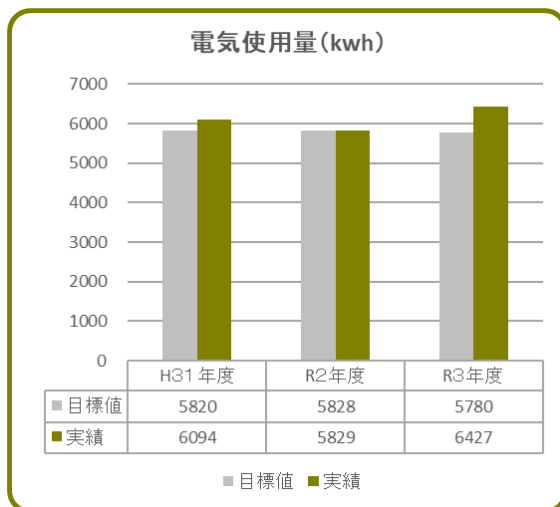


未来のために、いま選ぼう。



設定温度を明記したポップ
を付けて会社全体の意識を
高めました。

【取組の結果と評価及び次年度の取組】



【取組の結果】

CO2 排出係数：0.497

今年度の累計電気使用量は、目標値を上回り、二酸化炭素排出量についても目標値より約 11.2%超過してしまい、目標達成には不十分な結果となってしまいました。

電気使用量に注意を払い、節電に注力する必要があると感じます。

【評価及び次年度の取組】

引き続きチェックシートの運用・冷暖房設備のこまめな調節を心掛けるように、社員の意識向上に努めるのみならず、蛍光灯や冷暖房機の交換の際はより省エネになるものを導入するようにします。



1. 二酸化炭素排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理

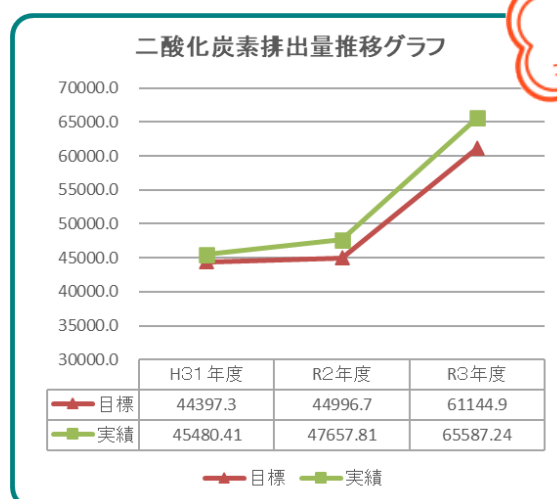
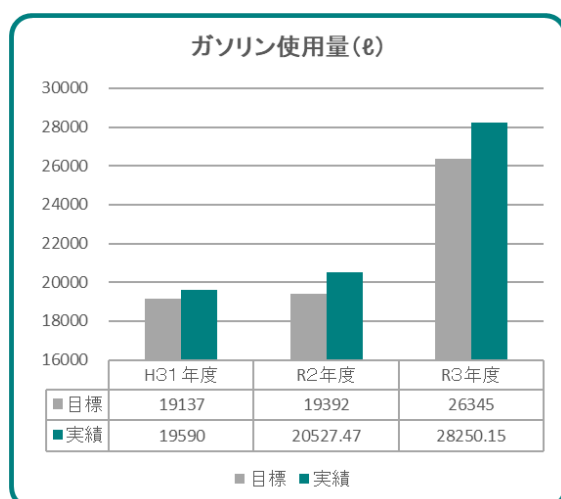
【二酸化炭素排出量の削減取組】



社員全員の目につくように1階休憩・工事室に燃費報告の掲示板及びポスターの設置を行いました。



【取組の結果と評価及び次年度の取組】



【取組の結果】

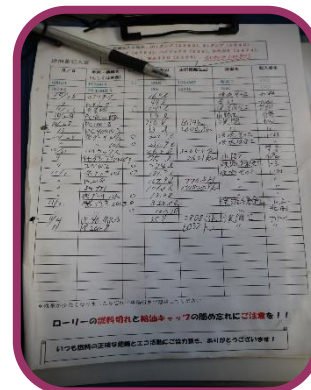
今年度は、累計ガソリン使用量が目標値より約7%上回ってしまい、維持管理としての許容範囲内である5%以内にと一歩及ばず、目標を達成することができませんでした。今年は自動車の台数・長距離通勤者が増えたので、改めて会社全体でエコ運転を意識して取組んでいくことが必要になってくるかと思われます。

【評価及び次年度の取組】

自動車の台数の増減で使用量に変化するのはやむを得ないが、社員のエコ意識はかなり浸透しているように思います。次年度も引き続き各車両の燃費チェック等で、社内のエコ意識向上が低下しないよう社内会議等の際に声掛けを行っていきたいです。

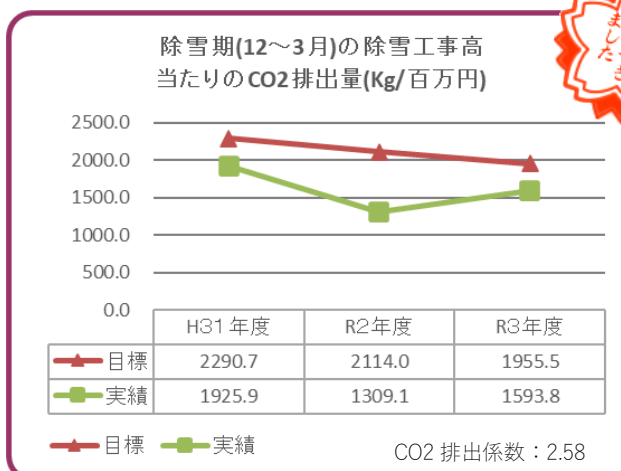
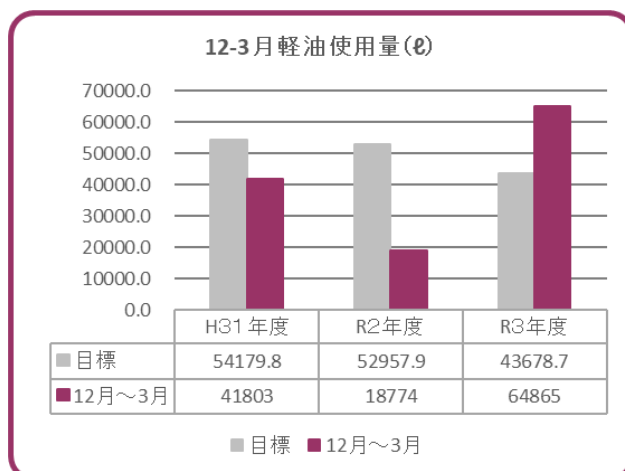
1. 二酸化炭素排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理

【二酸化炭素排出量の削減取組】



← 給油量記入表の活用

【取組の結果と評価及び次年度の取組】



※工事の件数・規模に応じて変動が激しい為、作業量に応じて工事高が変動する比較しやすい除雪期(12月～3月年間軽油使用量の50%以上を占める)の除雪工事高当たりのCO₂排出量で評価します。

【取組の結果】

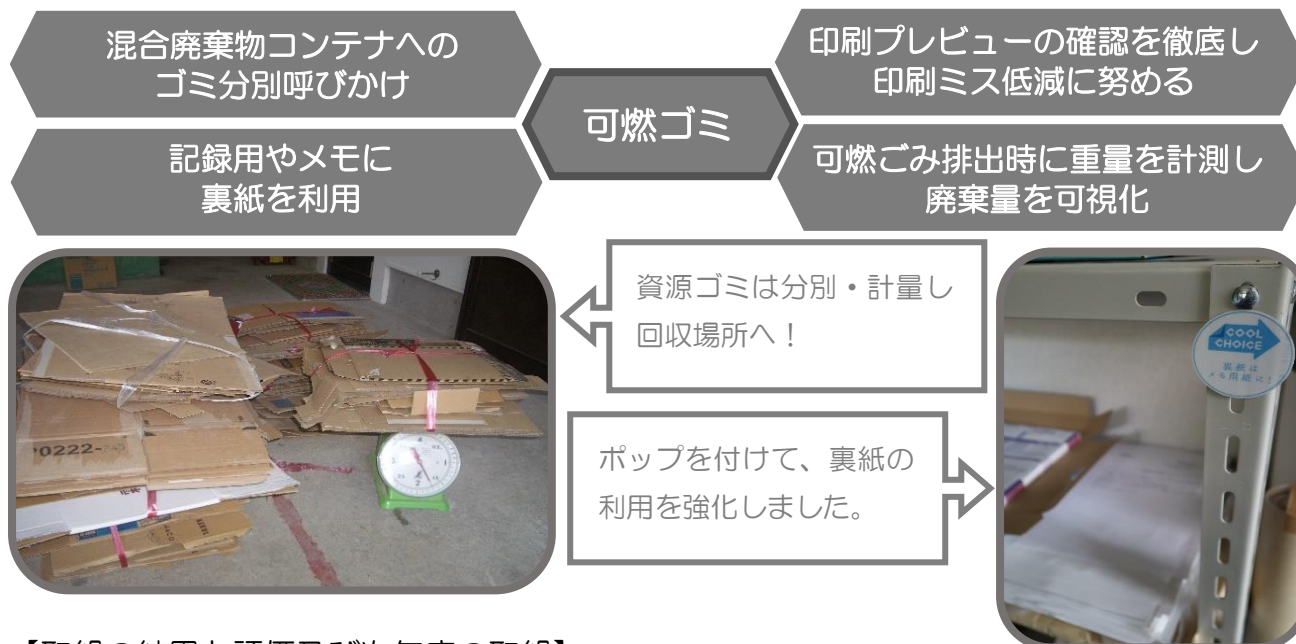
今年度の除雪工事高当たりのCO₂排出量は、基準年度から比べ約-57%、目標値より約-19%となり目標を達成することが出来ました。積雪も多く、また、通年で見れば工事が多いために全体での使用量はCO₂排出量は増加しましたが、オペレーター全体で燃費報告を積極的に行い、効率的なエコ運転を継続する努力がわかる結果となりました。

【評価及び次年度の取組】

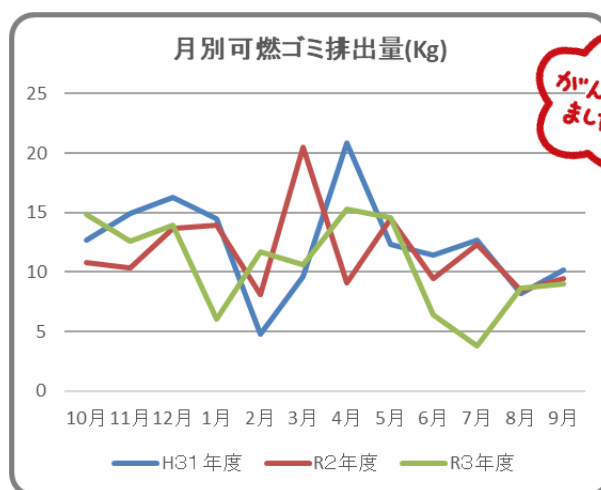
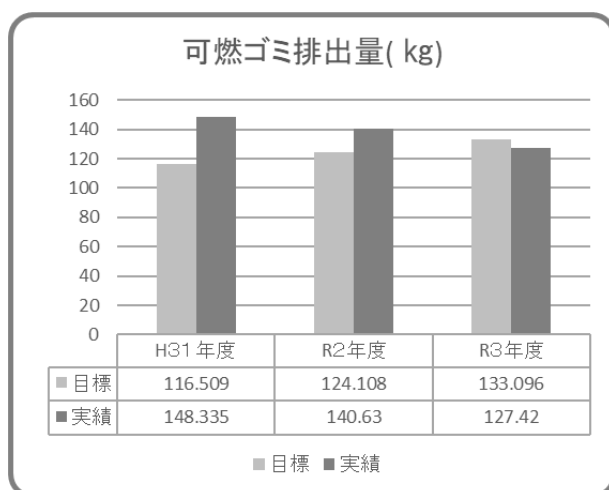
仕事量の増減で使用量が変化するのはやむを得ないが、社員のエコ意識はかなり浸透しているようです。次年度も引き続き、各ディーゼル車両の燃費チェックや、作業機械のエコ運転を通して、意識向上を図ってまいります。

2. 廃棄物排出量の削減(可燃ごみ)

【廃棄物排出量の削減取組】



【取組の結果と評価及び次年度の取組】



産業廃棄物 リサイクル率	目標	H31 年度	R2 年度	R3 年度
	100%	100%	100%	100%

【取組の結果】

今年度は、目標値より約 4% 下回る結果となり、目標を達成しました。継続して裏紙の利用や廃棄量の可視化をしてはいたものの、全体としては月ごとの目標値を上回る場合もしばしばあり、廃棄物が多くならないよう今後も注意喚起をするなどの改善をしていきたいと思います。

【評価及び次年度の取組】

コピーや試し刷りの裏紙使用等が徹底してなかったように思われます。次年度は今一度、コピー機の印刷ミス等印刷前のチェックと裏紙印刷の有効利用を会社に周知していくことが必要だと思います。

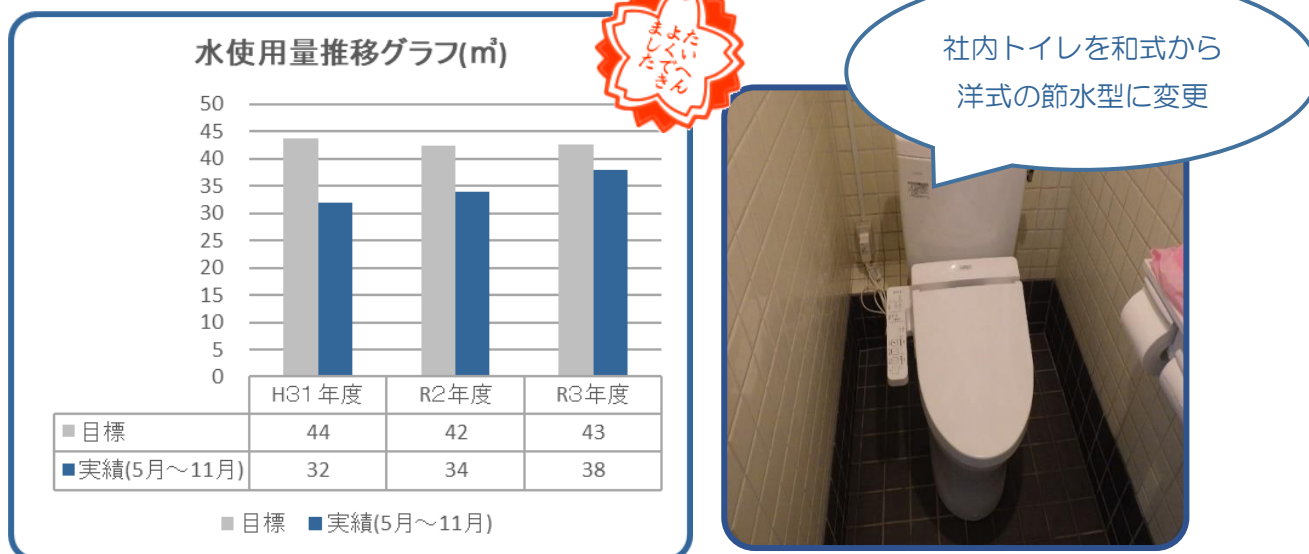


3. 水使用量の把握と節水努力の維持及び管理

【水使用量の削減取組】



【取組の結果と評価及び次年度の取組】



※12月～4月は水道凍結防止の為、排水を行う場合があるので実績から除いてあります。

【取組の結果】

今年度は、非凍結期間の水使用量目標値を約-13%下回り、目標を達成することが出来ました。会社全体で意識して水栓の閉め忘れなどに気を付けることが出来ました。

【評価及び次年度の取組】

水道使用量に関しては、過去の実績を見るに年に40m³程度が当社の標準と考えられます。次年度も継続して節水の意識向上に努めて、過大な水量が使用されないよう注意したいです。

4. 環境負荷の少ない建築資材の率先使用

エコ資材の使用を把握する

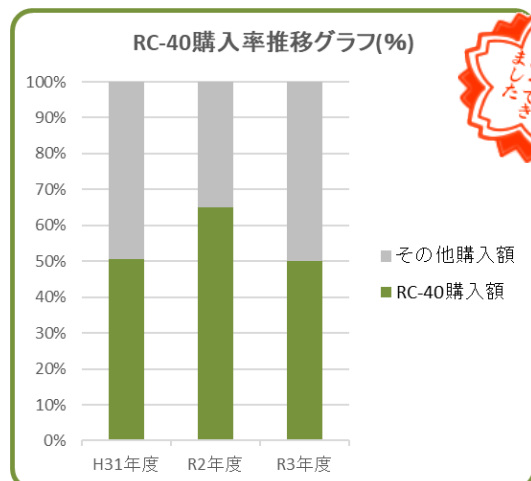
現場で使用可能なエコ資材の周知

エコ資材

エコ資材の率先購入に努める

RC-40 の率先利用
(コンクリート廃材再利用骨材)

【取組の結果と評価及び次年度の取組】



その他エコ資材

資材名	エコマーク認定番号	再生材利用率	利用状況
面木	06131017	再生プラスチック 78%以上	型枠組立時に通常利用
サンドガード	06105002	再生 PET 繊維 80%以上	フトンカゴ等に利用
ユニット標識 エコユニボード	07118031	再生 PET 繊維 50%以上	工事看板に利用
リサイクル スノーポール		ポリエチレン樹脂 (支柱部にリサイクル材使用)	除雪の目印に利用
プラ擬木	07131003	再生プラスチック 80%以上	金剛堂山登山山道整備工 事に利用
	07131002	再生プラスチック 70%以上	
ライナープレート		再生ポリプロピレン樹脂	自由勾配側溝、大型ブロ ック高さ調整に利用

※工事の件数・規模内容によって大きく変動する為、継続的な購入を目的とし評価します。

【取組の結果】

今期も RC-40 を 50%以上利用することが出来、目標を達成することが出来ました。工事が無い1、2月を除いて RC-40 を率先的に利用できています。今後も継続して利用していきたいです。

【評価及び次年度の取組】

RC-40 の利用率を継続できているのは評価できます。従来 RC-40 を購入していた事業者が閉業されてしまったなかで継続出来たのは良かったですが、設計上どうしても利用できない場合もあるので他の面でのエコ資材の活用を検討していきたいところです。

次年度環境経営計画

環境方針	対象	目標	目標達成手段	目標値
二酸化炭素排出量の削減	電気	CO2 排出量の維持管理 (※)	・暖房 20 度 冷房 28 度設定 ・ウォームピズの推奨 ・電源チェックシートの運用	年間使用量 5,974 (kWh)
	ガソリン	CO2 排出量の維持管理 (※)	・急発進・急停車の廃止 ・不要なアイドリング削減 ・車両の燃費を把握	年間使用量 26,345 (ℓ)
	軽油	冬季の除雪工事高の CO2 排出量維持管理 (※)	・エコ運転に努める ・低燃費、低排出型 車両への移行 ・給油量の報告	除雪工事高あたりの CO2 排出量 1860.4 (kg/百万円)
廃棄物廃棄量の削減	可燃ゴミ	可燃ゴミの排出量の 削減(※)	・社内、現場のゴミ分別推奨 (資源・可燃) ・裏紙、両面印刷の徹底 ・廃棄量の把握	年間排出量 123 (kg)
	産業廃棄物	産業廃棄物のリサイクル 率維持管理	・現場廃棄物の分別の徹底	リサイクル率 100%
総排水量の削減	水道	凍結期間を除いた 水使用量の維持管理(※)	・水道量の把握及び チェックシートの運用 ・湧水の利用(植木への散水 等に使用) ※非凍結期間のみとする	水使用量(非凍結期間) 40 (m ³)
自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	エコ資材	エコ資材の率先購入 (購入率 50%以上)	・エコ資材の把握 ・エコ資材の率先購入 ・現場での使用可能なエコ 資材の周知 ・RC-40 の率先利用	購入率 50%

※ (目標設定における維持は過去 5 年の平均値を目標値とし、+5%までを許容範囲とし、削減は過去 5 年の平均値を目標値とし、目標値以内の使用量・排出量を目指す)

建設業に関わる主な関連法規等

環境法規制等の名称/略称	該当する活動	評価
環境基本法	自然環境の保全措置	○
グリーン購入法	環境物品購入	○
地球温暖化対策推進に関する法律	温室効果ガス排出の抑制	○
環境配慮事業促進法	事業活動に係る環境情報の提供	○
廃棄物処理法	廃棄物処理委託契約、許可証の確認、マニフェストの保存義務	○
リサイクル法	建設副産物の再利用、再資源化促進	○
建設リサイクル法	分別解体、再資源化促進	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処分	○
オフロード法	基準適正機械の利用	○
消防法(危政令)	第2 石油類軽油等：2000L タンクローリーの保管	○
富山県景観条例	事業活動を通じて地域の景観づくりに寄与	○
南砺市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	廃棄物の適正処理	○
特記仕様書	特記仕様書に準ずる	○

弊社は、建設業に係る環境関連法規（富山県や南砺市の条例も含む）についてすべての適正法令を遵守しており、訴訟もありません。

代表者による全体の評価と見直しの結果

対象	変更の有無	評価
環境方針	☐ 有 / ☒ 無	今後も環境方針は変えずに取り組んでいく。
目標	☐ 有 / ☒ 無	ほとんどの活動が目標の限界に来ていることは承知している。その中で維持していくことが大切だと考えます。
計画	☐ 有 / ☒ 無	画期的な手法などは見当たらないが、堅実に出来ることを一つ一つ取り上げて計画し、目標達成につなげたい。
実施体制	☐ 有 / ☒ 無	各担当者の努力に敬意を払いたい。現状の体制を維持する。
その他	☐ 有 / ☒ 無	今後もコミュニケーションを大事にして、環境経営に取り組む。

代表者による全体総括

環境経営の継続によって社員の意識向上もあり、今年度も有意義な取り組みになったと思います。目標を達成できなかった部分についてはそれぞれ理由と対策を考えて次年度に繋げてもらいたいです。今後も安定した実績を維持していくことを目標に取り組んでもらいたいと思います。

2050年の二酸化炭素排出ゼロに向け、南砺市においてもSDGsパートナーを定める等、当社を取り巻く地域にも大きな変化の兆しが見えます。自治体等にも連携して更に環境経営を発展させていきたいところです。

環境保全に取り組むことにより、地域、会社が良くなっていくと確信しています。日々の仕事の中でという一番身近な所から「持続可能な会社」への取り組みを考えて行動ができる資質を社員ひとりひとりが身につけていけたらと願っています。

自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司

評価日：令和4年 1月 27日